

生命の強い人ほど熱が高く、その結果、體質の強健な人程かへつて多く命をとられるさうだ。生理學者でない私には詳しいことは分らぬが、面白いことと思ふ。

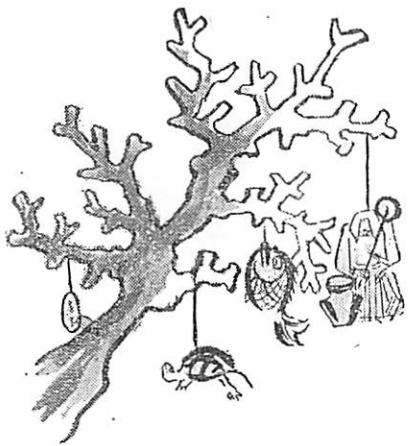
生命力の旺盛な人が或る問題にぶつゝかる。問題は生の躍進途上に横はる邪魔物である。生命力がこの邪魔物と衝突する所に發する熱が即ち『信念』である。生命力の強かつた吾々の先輩はこの衝突のために磔刑にされたり、遠流の刑に處せられた。キリストや法然や日蓮が思ひ出される。

再びいふ人生は試練だ。永久の未成品だ。

一步一步現實の此岸から理想の彼岸に前進してゆく過程そのものに生存の意義と生活の妙味がある。無量壽經といふ御經の中に佛とは覺者は也と言つてあるが、さつた人とは『もうこれでいゝ』といつて『人生をあきらめ』たり『自己満足』をした人ではない。開發すべき眞理と救済すべき衆生とを無限に見出して、たへず生々として精進してゆく生命力をいふのである。慢心は悪魔だ。現状維持は恐ろしい地獄だ。

×

松鶴師並に其一黨の過去四ヶ年に於ける苦闘に對して私は深々の敬意を表すると共に新らしき年を迎へるに方つて一層の勇躍を望む。君達の仕事に對して何か御力添へ御手傳ひを致したいと常に心に念じてはゐるが、何分藝道の方はズブ素人の私なので何も出来ない。せめて同人各位の心構へを強化する上にも御役に立ちたいと思つて、例の通り堅ぐるしい書き方ではあるが、筆をとりました。どうか同人各位は、あくまでも自信のある權威と理念にもへて、上方ばなしの新らしき進路へと目ざしてもらひたい。



龍の都

笑福亭 松鶴
桂 米之助 繪

へい一席當年の干支に因みましたお咄を申し上げます。豊前の小倉の濱から乗り込みましたが海上が穏かで船中は種々様々な噂をして居ります。

「モン皆さん今日みたいな波の靜かな日に乗り合しましたのがお互ひの仕合せだな」

「左様々々併し貴郎はん先刻船に乗る時に大きな荷物を積みなはつたが彼れは何だす」

「へえ彼れはフラスコと申しましてギヤーマンで造らへた物で形ちは瓶の大きな様な物だす」

「何をする物だすね」

「彼のフラスコの中へ人が這入りまして御馳走を入れて詰をしますぬ、綱をつけて海の中へ下ろしまして海中

で魚の泳いで居るのを見ながら一杯飲みますねん」

「贅澤な事をしますねんな、貴郎はんの御商賣だすか」